

経営比較分析表（令和4年度決算）

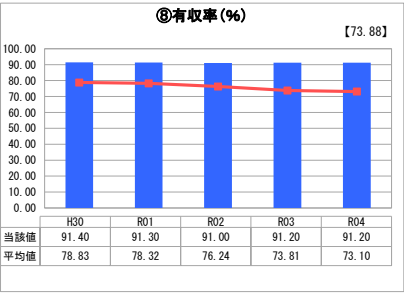
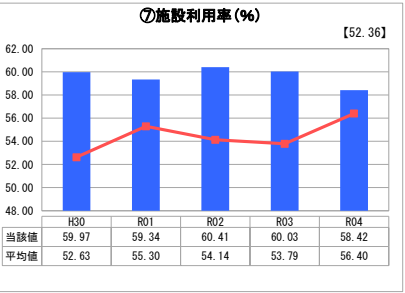
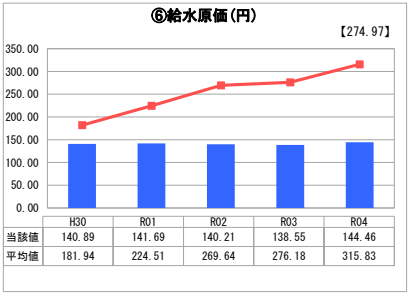
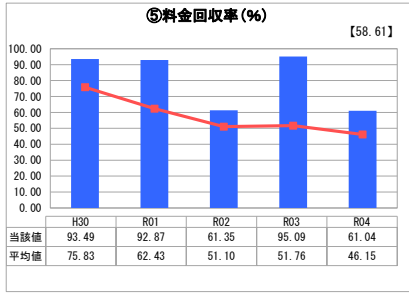
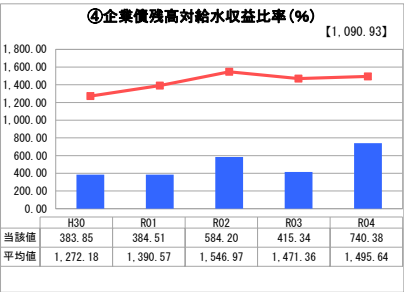
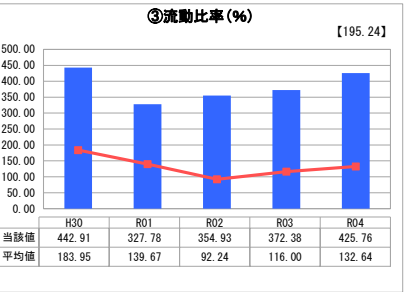
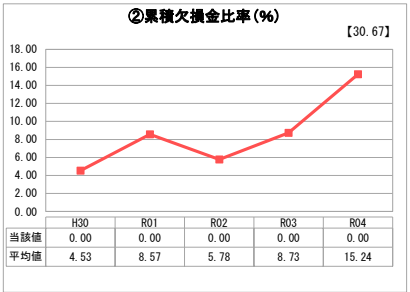
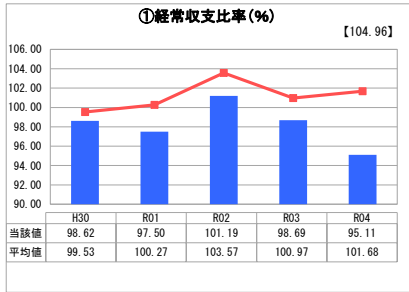
岡山県 和気町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	63.19	60.84	2,612	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
13,423	144.21	93.08
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
8,115	27.11	299.34

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、営業費用の増加により減少している。人件費及び原価償却費の増加が主な理由である。

流動比率については、前年度から未払金の減少により増加することになった。現状では、類似団体に比べ高い数値で推移している。

企業債残高対給水収益比率については、類似団体とは違い少ない傾向にあるが、企業債を財源とした施設の更新を行ったため、数値が上昇した。

料金回収率は、平成28年度から高い数値で推移していたが、令和2年度と同様に水道料金を免除（4期5期の4か月）したことにより、料金収入は減少しているが、一時的なものであるため健全性に問題がないと判断できる。

給水原価については、令和4年度では人件費が増加したこと上昇する要因となった。類似団体と比べて、低い水準であるが、今後も更なる適正な維持管理に努めていく。

施設利用率については、ほぼ横ばいで推移しているが、将来の人口減少等に踏まえ、施設の統廃合等の検討を実施していく。

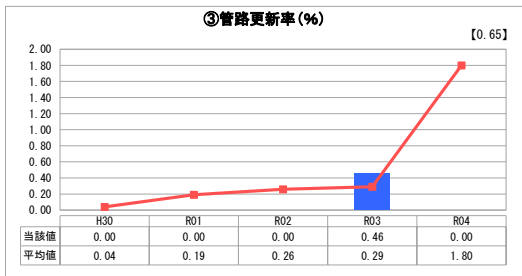
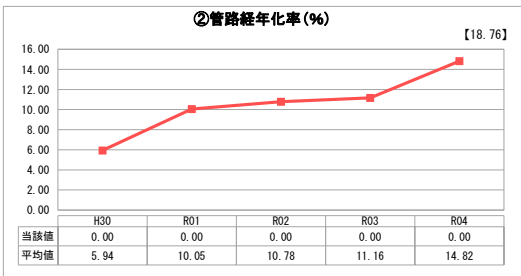
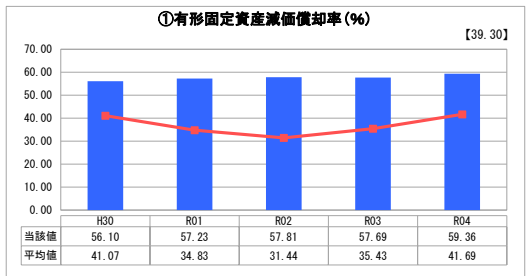
有収率については、近年、横ばいで推移しており、今後も適正な管理に努めたい。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率については、近年、横ばいで推移しており、類似団体に比べて、高い数値となっている。施設の法定耐用年数が、近づいている施設もあるので、今後は、計画的な施設更新を考えている。

管路経年劣化及び管路更新率については、過去数年間平均してみると低水準で推移しているが、保有資産の計画的な更新を進めていく必要がある。

2. 老朽化の状況



全体総括

経営の健全化に向けて、更なる維持管理の効率化で経費削減に努め、適正な料金改定を進める必要がある。また、施設の老朽化に備え、浄水・配水施設や管渠等の計画的な更新を進め、健全な事業運営に努める。